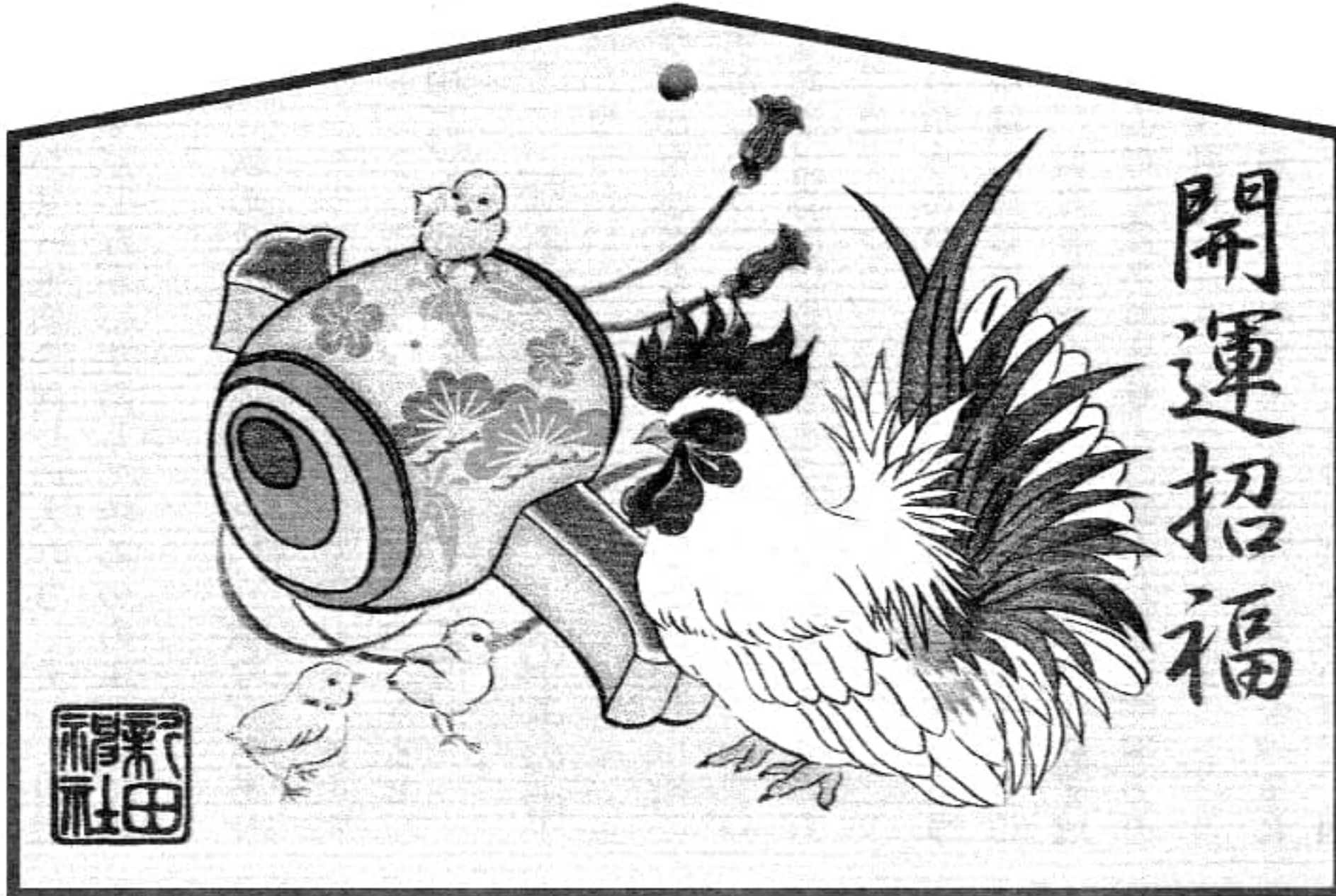


新田神社社報

平成29年1月1日発行
新田神社社務所
大田区矢口1-21-23
電話 03-3758-1397
<http://nittajinja.org/>

迎春

開運招福



『七ころび八起きの精神』

新田神社宮司 品川宗久

あけまして、おめでとうございます。皆様方には、よいお年をお迎えになられました事とお慶び申し上げます。

さて、昨年はリオデジャネイロでオリンピックが開催され、この日本がかつてないほどのメダルを取り、様々な場面にドラマに感動したことと思います。各国のすべての代表の選手たちにメダルをあげたいと思いつつも、オリンピックには魔物が住むといわれるように、実力があってもちよつとしたことやその時の運・不運によって、メダルの有・無が決まってしまう。こうした選手たちは日頃の血と汗をにじむような努力や習練を積みながら、いろいろな試合にのぞんでいるわけですが、そこにはただ個人の努力だけではなく、家族や周りの人達の理解や支えや協力があればこそということを決して忘れてはなりません。

私たちは生活をする上で決して自分一人の力だけで生きているわけではありません。空気や水なども簡単に作る事はできません。食物などを例にとっても、大自然の恵みをいただき、肉や魚、野菜、果物すべて生きているものの命を殺して、私たちはこれらを食物とすることにより、この自らの生命をつなぎ止めているわけで、いわば「生かされて生きている」といっても過言ではありません。

今の時代、いろいろなものが当たり前の感覚や自分さえよければという意識が強く、こうしたことが目には見えていても、なか

なか感謝の気持ちを実感できないことがたくさんあります。それゆえ、時には心を落ち着かせ、家族や周りの人たち、そして自然や物に対する感謝の念を感じながら生活してみるのもよいのではないのでしょうか。

明治天皇の御製には、次のような「述懐」という歌などもあります。

かたしとて 思ひたゆまば なにごとも

なることあらじ 人のよの中

(述 懐・・・思うことを述べる。)

(かたし・・・むずかしい。)

(たゆむ・・・おこたる。ゆだんする。)

この歌はむずかしいからといって、なすべき事をおこたるようでは、人の世の中の事は、決して成功するものではないということとを詠まれたものです。努力をしたからといって、それが必ず成果となつてあらわれるものではありません。しかし、まず努力をしなければ何も始まりません。

これはスポーツだけではなく、私たちの生活や仕事、すべてに通じるものだと思います。その希望が大きければ大きいほど、困難もまた大きいものです。明日を信じ、未来を信じ、そして自分を信じて、すべて不屈不撓の精神で励み努力しながら、感謝の気持ちを持て常にならぬ、一日一日を大切に過ごしていただき、皆様方にとりまして、本年が充実したよいお年となりますよう御多幸と御平安を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

『鶏にまつわる話』

古くから養鶏の発達した東南アジアや中国では鶏が隠れた太陽を呼び出す神話があります。鶏は世界各地でも神聖視され、ギリシアでは太陽神アポロンに捧げられ、メキシコでも太陽に捧げられました。また鶏による占いも数多く点在しています。

この鶏は農耕儀礼とも関係が深く、東南アジアやヨーロッパでは稲作や麦作において、鶏を畑に埋めたり、その血を耕地にまいたりして、豊作などを祈ったりもしました。

また鶏に見られる闘争性から古代ペルシアでは、雄鶏は夜の悪魔を追い払うともいわれました。ヨーロッパの教会では塔の十字架の上に風見の雄鶏を付けましたが、これは十字架以上に悪魔を追い払う霊力があるためだといわれています。

日本の「古事記」の天の岩戸神話では、鶏を『常世の長鳴鳥』と記され、その鳴き声により太陽神である天照大御神を閉じこもつた岩戸から呼び戻す役割をなし、日本でも鶏は霊力を有する霊鳥とされました。時計を持たない古代人にとって、その鳴き声が唯一の時を知る方法であり、闇夜からすべてが目覚める朝が来てほしいと願う人々には、とても嬉しい一声だったのです。それゆえ、古代は、鶏を食用とはせず、神使いとして尊重し、神社の境内などに放し飼いにされるようにもなりました。



『おみくじ』

神慮（しんりょ神の御心・教え）を伺う占いの起源は、古代にまでさかのぼることができ、その一つに亀の甲羅を火で炙り、そのひび割れ方で占う亀卜や鹿の骨を焼いて占う太占などがありません。

おみくじは、こうした占いの一つであり、吉凶や勝敗や物事を選定する方法として広く用いられます。語源も、そのくじの形態から「串」であるという説や訴訟やもめ事を公正に判断するという「公事」からという説があります。現在、神社などにおかれているおみくじは、個人の運勢を占うことが中心であり、今のような形のものが見られるようになったのは江戸時代にはいつ頃からだといわれております。

「吉凶」については、それ程の差異はありません。大切な事は日々の生活を充実させるために、そのおみくじの内容をいかに自分自身の教訓として生かすかという事です。たとえ「凶」が出たとしても、決して悪い事ではなく、何事も慎重に十分注意しながら生活や仕事に励んでくださいということ。さすれば、だんだんと運氣は上昇していきます。

また「おみくじ」をひく心得として、神社へ来て、まずさきに「おみくじ」をひくのではなく、御神前でお参りをして、何か神様にお尋ねしたい事などの願をかけてから、「おみくじ」をひくのがよいでしょう。

神社によっては、おみくじを結ぶ指定の場所などがあるところもあります。それは私たちの祖先は昔から「結ぶ」という行為そのものに神秘的な力・願いを信じてきました。それゆえ新田神社

では境内の木々のみなぎる生命力にあやかりたいという気持ちや運氣上昇の願いをこめて、それぞれの思いの『木』に結んでもらいます。また、「おみくじ」の内容がよいものは、カバンや財布の中に入れておいたり、机の上に飾っておくのもよいでしょう。

新田神社 お正月限定の二種おみくじ

●『開運おみくじ』

初穂料 二百円

中に「おみくじ」と『縁起根付け（だるま）（宝船）（福ろう）（目出鯛）（招き猫）（福かえる）（お多福）』の七種のうちのいずれかのソフトゴムファイギアが入っています。

●『福の神おみくじ』

初穂料 百円

今年、幸運な人の「おみくじ」の中に七福神の「恵比須・大黒」の御神像が入っています。この御神像が入っていましたら、財布やカバンの中に入れておいてください。きつとあなたの願い事などがかなえられるでしょう。小さいので、おみくじをあけると時に落とさないよう気をつけてください。

知っていますか？

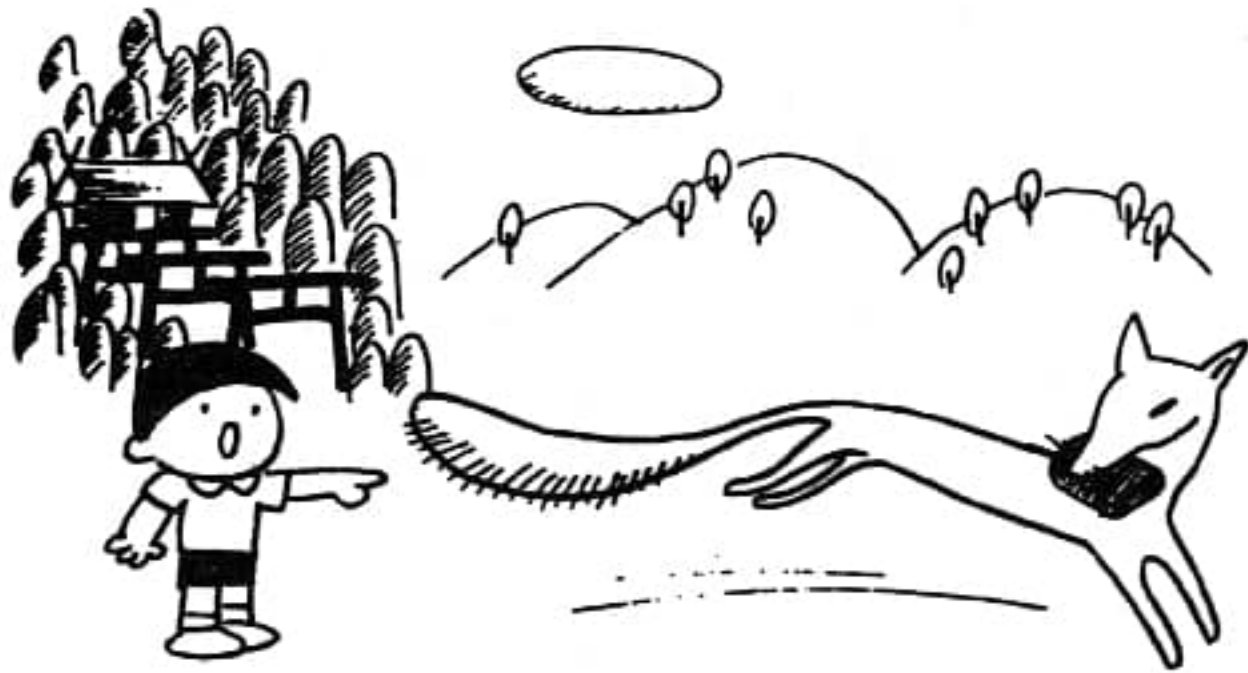
『稲荷の神様について』

この稲荷の神さまの正式の御名を宇迦之御魂神うかのみたまのかみといます。よく狐が神さまだと勘違いされている人が多くいらつしやいますが、狐はお稲荷様の眷属けんぞく（お使い）であり、神社の神域を狛犬こまいぬが守っているように、狐が稲荷神社を守っているのです。

この日本の国は弥生時代の昔より今日まで稲作によって栄えてきた国であり、私たち日本人の主食はなんといっても「お米」です。コメとは神さまの偉大な霊力・御恵が「こめられたもの」という意味があります。そして、このコメが実ったものが稲穂であり、この稲を成らせる霊力を持っている神さまが、すなわち稲荷の大神さまなのです。

そして、時代が下るとだんだんと産業・商工業が発展するようになり、次第に五穀豊穰の神さまであると共に「商売繁盛・金運上昇・福徳円満・諸願成就の神さま」としても、広く人々に信仰されるようになってきました。

また、稲荷神社には赤色の鳥居があります。これは穀物の豊作の願いが込められた太陽を表すといわれています。



平成29年の厄年（数え年）

	前厄	本厄	後厄
男の厄年	24才 平成6年生 満23才 いぬ	25才 平成5年生 満24才 とり	26才 平成4年生 満25才 さる
	41才 昭和52年生 満40才 み・へび	42才 昭和51年生 満41才 たつ	43才 昭和50年生 満42才 うさぎ
	60才 昭和33年生 満59才 いぬ	61才 昭和32年生 満60才 とり	62才 昭和31年生 満61才 さる
女の厄年	18才 平成12年生 満17才 たつ	19才 平成11年生 満18才 うさぎ	20才 平成10年生 満19才 とら
	32才 昭和61年生 満31才 とら	33才 昭和60年生 満32才 うし	34才 昭和59年生 満33才 ねずみ
	36才 昭和57年生 満35才 いぬ	37才 昭和56年生 満36才 とり	38才 昭和55年生 満37才 さる
	60才 昭和33年生 満59才 いぬ	61才 昭和32年生 満60才 とり	62才 昭和31年生 満61才 さる

数え年とは、満年齢に誕生日前には二歳、誕生日後には一歳を加えた年です。厄年の方は、厄除祈禱をお受けになられたり、厄除の御守を身に付けられまして、厄年としての自覚を深め、神様のご加護のもと明るく充実した生活をお送り下さい。

幸せと安らぎの日々を

新春祈禱の御案内

年頭に当たり、皆様方の幸せと無事を祈り、明るい希望に満ちた平成二十九年となりますようご祈願申し上げます。

- 〔家内安全〕
- 〔縁むすび〕
- 〔商売繁昌〕
- 〔方位除災〕
- 〔合格祈願〕
- 〔営業繁栄〕
- 〔厄除招福やくよけ〕
- 〔身体健全〕
- 〔交通安全〕
- 〔必勝開運〕
- 〔病気平癒へいゆ〕
- その他

個人の祈禱料は、五千円以上お気持ちをお納め下さい。

お問い合わせは（三七五八）一三九七

新田神社社務所 まで